

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>一人ひとりの生徒を大切に、豊かな人間性と確かな学力、課題解決能力を育み、地域との連携を推進しながら、次世代のリーダーを輩出する学校</p> <p>1. 豊かな人間性 (自分の大切さとともに他人の大切さを認め、互いに助け合い、よりよい社会を創っていく忍耐力・責任感・規範意識を持ち、自律して社会を支える力) を育成する学校</p> <p>2. 確かな学力と課題解決能力 (基礎的な知識や技能を習得し、それらを活用して自ら考え論理的に思考・判断し、表現する力) を育む学校</p> <p>3. 地域連携 (地域とともに、「学び」、「歩み」、地域に貢献し、地域から信頼される) を推進する学校</p> <p>4. 次世代リーダー (チャレンジ精神とリーダーシップ力をもち、自主的・積極的に学校での諸活動やボランティア活動などの体験に取り組む) を育成する学校</p>

2 中期的目標

<p>1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成</p> <p>(1) H28年度からの専門コース設置に向けて、カリキュラムや授業内容の検討をすすめ、進路実現を念頭においた新カリキュラムでの「学び」の充実をはかる。 ア 改編PTが中心となって、新カリキュラムを策定するとともに、新たに設置する教科・科目の準備を進める。 イ 外部機関と連携した授業を取り入れるなど、授業の充実を図る取組みを推進する。 ※普通科総合選択の生徒アンケートの中の「『普総選』で学んだこと」への満足度を段階的に引き上げ、平成29年には85%以上にする。</p> <p>(2) 基礎・基本の学力定着から、課題解決に向けた思考力や表現力をはぐくむことをめざす授業改善に取り組む。 ア 「朝学」の学習内容の充実や各種検定への参加、基礎学力向上をめざす教材等を通じて、家庭での学習習慣、基礎的・基本的な学力の定着をはかる。 イ 授業見学の取組みの活性化、ICT機器の整備・活用を通じて、授業改善の取組みを推進する。習熟度別授業、少人数授業の効果的な運用を図る。 ※授業アンケート(2回)の学校平均(H26年度 3.07)を毎年段階的に引き上げ、平成29年度には3.20以上をめざす。 ※普通科総合選択制の生徒アンケートの中の「身についた学力」の中の、「考える力」(H26 63.8%)「表現する力」(H26 62.8%)「発表する力」(H26 61.8%)「コミュニケーション力」(H26 62.8%)を、それぞれ引き上げ、平成29年度にはそれぞれ10ポイント以上の増加をめざす。</p> <p>2 基本的な生活態度の確立に向けた指導体制の構築</p> <p>(1) 規範意識醸成のため、あいさつ運動やマナー向上の全校的取組を推進し、遅刻指導を徹底する。 ア 遅刻撲滅に向けた校内取組体制を全教員の共通理解のもとで再構築するとともに、家庭との連携協力体制を確立する。 ※生徒の年間遅刻総数1000以下(平成26年度 922)を維持するとともに、遅刻総数/在籍生徒数1.0以下をめざす(平成26年度 1.34) イ 全教員による朝の「おはよう」運動と日常の学校生活における挨拶を奨励する。 ウ 制服指導や交通マナーなどの向上や校内美化に向けた取組みを推進する。 ※学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒(平成26年度 75%)の割合を毎年段階的に引き上げ、平成29年度には80%以上をめざす。</p> <p>(2) 教育相談室の整備と相談教員の常駐体制を確立する。 ア 教育相談委員会を中心に生徒情報の収集に努め、全教員でこれを共有するとともに、学校として家庭・地域との連携を密に行う。 イ 支援教育コーディネーターを中心に、課題を抱える生徒に対する個別支援の取組みを推進する。 ※学校教育自己診断における「相談できる先生がいる」生徒の割合(平成26年度 59%)を毎年段階的に引き上げ、平成29年度には70%にする。</p> <p>3 「志」や「夢」の実現に向けた指導計画の確立と指導・支援の充実</p> <p>(1) 進路目標設定から進路実現まで3年間を見据えたキャリア教育を展開する。 ア 高い志を持ち続けることができるよう、「自分を知る」をテーマとした進路学習の指導計画と、授業や「総合的な学習の時間」とLHRの時間を連動させた年間指導計画を策定し、生徒の進路実現をはかる。 ※生徒の進路希望実現率(3学年当初の進路希望の実現率・「決定数/当初の希望数」)を毎年90%以上をめざし、進路未決定者を減少させる。 (H26 実現率 85.4% 大学・短大 96/94 専門学校等 59/65 就職 19/28 (学校斡旋は 14/14=100%)、未定浪人・非正規雇用を含む)32/5) ※普総選アンケート「卒業後の進路は自分が選択したエリアと関連がある」(H26 49.3%)「自由選択科目は進路を実現する力をつける上で役に立った」(H26 53.3%)を毎年段階的に引き上げ、平成29年度はそれぞれ10ポイントアップをめざす。 イ 生徒の進路実現に向けた進路指導体制を構築して、講習・補習などの手厚い学力支援体制を確立するとともに、キャリア教育の一環として漢字検定、英語検定、サービス接遇検定等に生徒がチャレンジすることを一層促進する。 ウ 近隣大学(四天王寺大学等)や関係機関等との連携を通して、生徒が進路意識を高め、進路実現のための学習や体験ができる機会を確保する。</p> <p>(2) 豊かな人間性の形成に寄与する人権教育を展開する。 ア 3年間を通じた人権教育の指導計画を策定し、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を身に付けさせる。</p> <p>4 地域と連携した安全・安心で、魅力のある学校づくり</p> <p>(1) 地域と連携した取組みを推進するとともに、広報活動を強化して学校の魅力を発信する。 ア 生徒の出身中学校訪問、学校説明会への参加、地元の各種イベントへの参加や協力等を通じて、生徒の自己有用感を高めるとともに、本校の特色を広く周知するよう努める。 イ ICTの活用等により情報化・効率化を図り、教職員が時間的・精神的な余裕を持てる環境を整備するとともに、積極的な情報提供、広報活動を展開する。</p> <p>(2) 地域と連携した、安全・安心、環境美化・保全等の取組みを推進する。 ア PTAと連携しながら、あいさつ運動や校外清掃、環境美化の取組みを推進する。 イ NPO等と連携しながら、生徒とともに地域の環境保全活動に取り組む。 ウ 地域の外部人材や施設を活用しながら、生徒の学ぶ意欲の向上や進路実現のために役立つ体験的な授業や講座を開催する。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
「確かな学力」と「学び」への主体性の育成	<p>(1) H28年度からの専門コース設置に向けた教育課程の編成</p> <p>ア 専門コース設置のためのPTを中心に教育課程を策定し、新しい教科・科目の準備をすすめる。</p> <p>イ 外部機関と連携した授業を取り入れるなど、授業の充実を図る取組みを推進する。</p> <p>(2) 基礎的な学力の定着と「分かる授業」「思考力・表現力をはぐくむ授業」をめざした授業改善の取組みを推進する。</p> <p>ア 基礎学力の定着をはかる取組みを推進する。</p> <p>イ 授業改善の取組みを推進する</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の学力伸長、進路実現を図るという観点にたつて、専門コース設置を含めた新しいカリキュラムを策定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門コース設置に向けた施設・設備の改修や物品の整備を図り、それらを活用した学習活動を展開する。 ICT機器の導入等、エリアの授業充実のための環境整備を行う。 <p>イ・外部講師の招へいや外部機関と連携した体験的な授業の実施等(保育体験や高大連携授業等)を通じて、授業を充実させるとともに、生徒の進路実現に資する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・1学年での英数やエリアでの少人数展開授業、「朝学」の実施により、生徒の基礎的・基本的な学力の定着・増進をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着と家庭学習の充実をはかるための「オリジナル教材」の作成とその活用をはかる。 漢字検定等様々な検定への参加を働きかけることにより、チャレンジ精神を育み、ワンランク上の級への合格をめざす取組みを推進する。 <p>イ・授業改善のためICT環境の整備・活用を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導教諭を中心とする授業改善委員会が主体となって、年2回(6月、11月)に授業公開週間を設定し、すべての教科で研究授業を行い、校内での授業改善のための研究・研修を活発にする。 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 府教育委員会HPでの「学校概要」の掲載 普通科総合選択の生徒アンケート「エリアの学習は興味・関心を満足させた」への肯定的回答率を昨年以上とする。(H26 70.8%) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 同アンケートの「自由選択科目は進路実現に役立った」に対する肯定的回答率を昨年以上とする。(H26 53.3%) <p>(2)</p> <p>ア 学校教育自己診断で「授業以外に1日あたり約1時間以上学習(講習・家庭学習等)をしている」生徒の肯定的回答率が3割を上回ること。(H26 19%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種検定の合格者数等、昨年度の実績数()内の人数を上回ることめざす。 漢検 準2級以上の合格者(2級3、準2級26) 英検 準2級以上の合格者(準2級7) サービス接遇の合格者数 (H26 準1級3人、2級10人3級35人) <p>イ 学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」の肯定的回答率を6割以上とする(H26 60%) 同アンケートの生徒の授業満足度(H26 49%) 10ポイントアップをめざす。</p>	
基本的な生活態度の確立に向けた指導体制の構築	<p>(1) ルールやマナーを守り、規範意識に富んだ生徒を育成する取組み</p> <p>ア 「おはよう」運動の展開、「あいさつ週間」、ノーチャイムデーの実施</p> <p>イ 制服指導や交通安全指導等の推進</p> <p>(2) 教育相談体制の確立</p> <p>ア 教育相談の活性化</p> <p>イ 支援教育コーディネーターの活用</p>	<p>(1)</p> <p>ア・毎朝の「おはよう運動」、年3回のあいさつ週間(各1週間)を実施するとともに、業間遅刻をなくすため、毎授業「5分前集合」「2分前着席」の声かけをして徹底を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性を育む観点から、ノーチャイムデーを実施する。 <p>イ・警察等の外部組織から講師を招いて薬物や交通安全についての講習会等を実施するとともに、全教職員が一致した基準で指導することを通じて、生徒の規範意識を高める。</p> <p>(2)</p> <p>ア・隔週に教育相談委員会を開催し、生徒情報の共有化に努める。さらに学年団会議や職員会議等で全教職員が情報を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任のカウンセリングマインドを高める研修を実施するとともに、教育相談室の整備・拡充及び活用促進のための周知徹底等、日常の相談体制を強化する。 <p>イ・特別支援教育コーディネーターを中心に、課題の抱える生徒の学校生活を支援する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の年間遅刻総数1000以下を維持するとともに、遅刻総数/在籍生徒数1.3以下をめざす(平成26年度922 遅刻総数/在籍生徒数1.33)</p> <p>イ・学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合(平成26年度75%)を昨年以上とする。</p> <p>ウ・学校教育自己診断における「ルールを守って生活している」生徒の割合(平成26年度89%)を維持する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・月に2回以上、支援会議を行う。 学校教育自己診断における「相談できる先生がいる」生徒の割合(平成26年度59%)を昨年以上とする。</p> <p>イ・支援を必要とする生徒の支援を充実させる。 当該生徒・保護者との面談やカウンセリングの回数</p>	
「志」や「夢」の実現に向けた指導・支援の充実	<p>(1) 3年間を見据えたキャリア教育の推進</p> <p>ア 自己(進路)実現に向けた進路指導の充実</p> <p>イ 各学年、各教科による基礎学力の保障及び卒業後の進路実現を図る取組みの推進</p> <p>(2) 豊かな人間性を形成するための教育の推進</p> <p>ア 人権教育の観点や「生徒に育みたい力」を踏まえた学習活動の充実を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の進路意識の高揚や、自己(進路)実現のため、進路関係行事の実施計画を立案・実施する。 (進路体験行事、懐風館セミナー(大学等の出前講義)等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育産業とも連携しながら、生徒の自己実現に向けた意識高揚を図る取組みの充実を図る。 <p>イ・進路実現を図る教育課程(H28年度入学生分)を策定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路指導体制構築のため、教職員研修等を充実させる。 補習や進学講習など、生徒が自ら学ぶ意欲を高め、参加するよう働きかけを強め、その機会を充実させる。 家庭学習を習慣づけるための取組みを推進する。 <p>(2)</p> <p>ア・「自主性」「自立・自律」「規範意識」「感受性」など、豊かな人間性や人権感覚を育むために、「総合的な学習の時間」やLHRを有機的に連携させながら学年ごとの年間計画を作成し、実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な生活の中で生起する人権課題(SNSによるいじめ)や障がい者理解を学ぶ機会を設けるなど、すべての教育活動において、人権感覚を養う取組みを行う。 	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断で「進路についての情報提供が役立った」生徒が80%を上回ること。</p> <p>イ・学校教育自己診断で「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の肯定的回答率が30%を上回ること。(H26 24%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断で「授業以外に1日あたり約1時間以上学習(講習・家庭学習等)をしている」生徒の肯定的回答率が3割を上回ること。(H26 19%) <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断で「人の生き方」「命の大切さ」社会のルールを学ぶ機会がある生徒が70%を上回ること(H26 69%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断で「人権について学ぶ機会がある」生徒が65%を上回ること。(H26 62%) 	
地域と連携した安全・安心で、魅力のある学校づくり	<p>(1) 広報活動を強化し、学校の魅力の発信</p> <p>ア 広報用資料の改定</p> <p>イ 中学校訪問、学校説明会等広報活動のさらなる充実</p> <p>ウ ICT等を活用した情報提供、広報の充実</p> <p>(2) 地域と連携した取組みの推進</p> <p>ア 新教育課程の円滑な実施に向けた地域連携の強化</p> <p>イ 地域と連携した生徒の自主的・主体的な活動の推進</p> <p>ウ 地域や外部機関と連携した教育活動の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア・専門コースの設置や学校の様々な取組みを、中学生や保護者に周知するために、H28年度入学生に向けた新しい広報パンフレットを作成する。</p> <p>イ 中学校訪問や学校説明会(部活動体験・学校体験等)を充実させ、H28年度からの新教育課程の周知に努める。</p> <p>ウ・HPの随時更新や、本校の取り組み等を発信し、広報に努めるとともに、メール配信等により保護者への適切な情報提供を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア 地域と連携した新しい教科・科目の準備のために、地域の関連機関と連携して、準備を進める。</p> <p>イ 支援学校との交流や地元の各種イベントへの参加や協力等の機会を増やし、生徒の自己有用感を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した環境保全(カワバタモロコ(絶滅危惧種)の保全等・環境美化(通学路清掃等)の活動を行う。 <p>ウ・PTA・地域や外部機関と連携しながら、生徒の安全や安心を高める取組みや環境整備をすすめる。(環境美化・緑化、熱中症対策や交通安全、心肺蘇生、薬物乱用防止等)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・新しい広報用パンフレットの完成</p> <p>イ・中学校訪問回数や説明会等への参加者を昨年以上とする。 (H26 校内 570 実施、校外 700)</p> <p>ウ・HPの更新数、メール等の配信回数を昨年以上とする。 (H26 HPの更新回数91回メール配信回数125回)</p> <p>(2)</p> <p>ア・H29年度から始まる、地域と連携した教科・科目(『サービスマーケティング』入門及び実践)の連携先との協議を進め、内容や評価方法を決定する。</p> <p>イ・それぞれの活動に参加する生徒数 (H26 支援学校との交流参加者50人)</p> <p>ウ・学校教育自己診断における「校内の花や緑が増えた」の割合を70%以上にする。(H26 68%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断で「人の生き方」「命の大切さ」社会のルールを学ぶ機会がある生徒が70%を上回ること(H26 69%) 	